

愛媛県ノーリフティンングケア 普及啓発事業

西予市野城総合福祉協会

特別養護老人ホーム

法正園



特別養護老人ホーム 法正園概要



所在位置：西予市野村町

ユニット型特養：50床

(3ブロック、6ユニット)

併設短期入居：4床

併設デイサービス：定員29名

開所：昭和52年4月1日

ユニット改修工事：平成20年1月1日



特別養護老人ホーム法正園現況・入居者

令和6年2月1日現在

定員 50名

実人員 50名（女性34名、男性16名）

平均年齢 89.4歳（72歳～101歳）

平均要介護度 4.29

要介護2（1名）要介護3（6名）要介護4（20名）

要介護5（23名）

平均利用年数 3.4年（最長22年）

車椅子使用率96%、移乗介助必要率90%

モデル事業への応募理由

当法人では「力のいらない介護技術」を長年取り組んできましたが、人力での介助方法にて身体的負担があり腰痛の原因となっている。

以前からも腰痛アンケート実施しており腰痛保持者が約半数ありましたが、改善の取り組みには至っていなかった。

職員、利用者が安全・安心で過ごせるよう応募させて頂きました。

取り組み内容

ノーリフティングケア推進委員会の立ち上げ（各ユニット1～2名、理学療法士）

事前アンケートの実施

ノーリフティングケア普及啓発事業全体研修への参加

ノーリフティングケア普及啓発事業アドバイス研修への参加

委員会で福祉用具の選定と取り組みの検討（毎月）

個別研修（全3回）

ノーリフティングケア施設内研修会の実施（毎月）

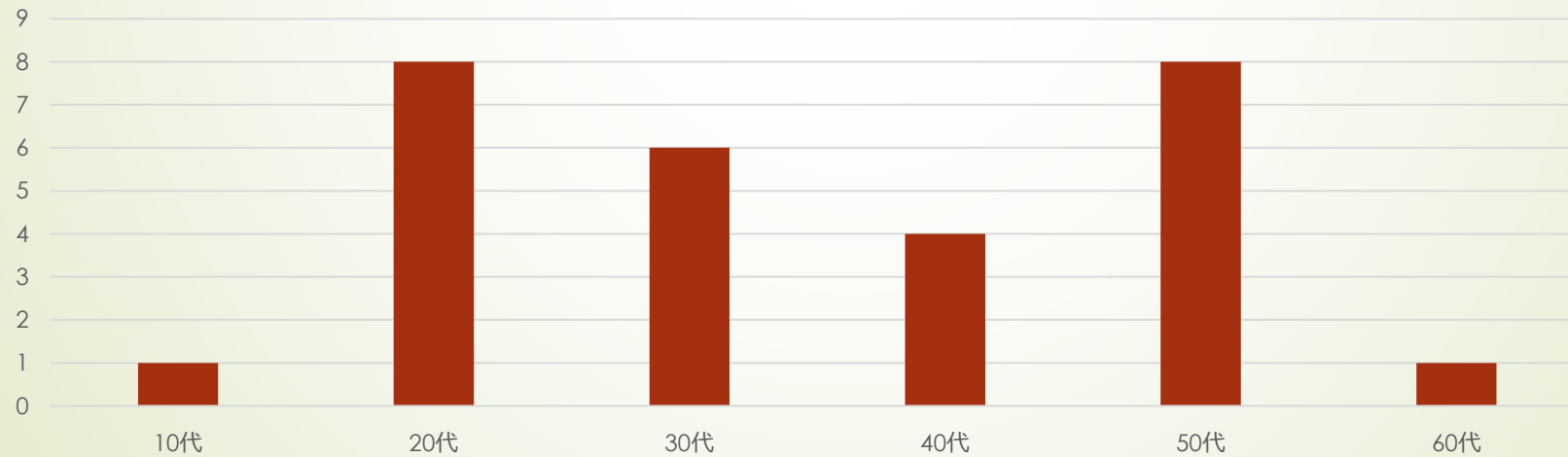
事後アンケートの実施

介護職員の状況

介護職員年齢

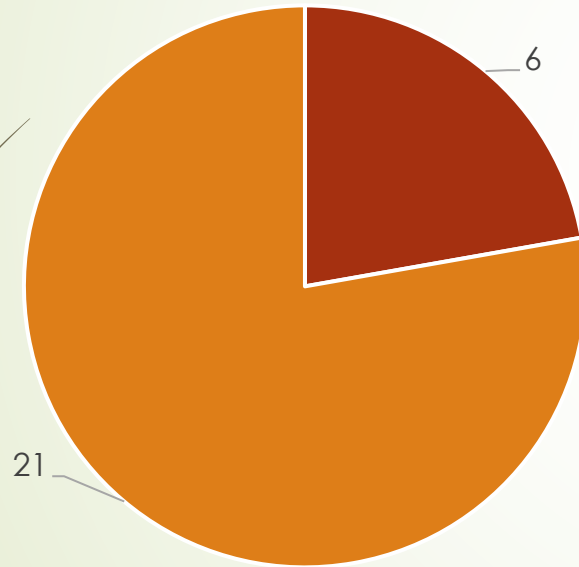
年齢	人数
10代	1
20代	8
30代	6
40代	4
50代	8
60代	1

グラフタイトル



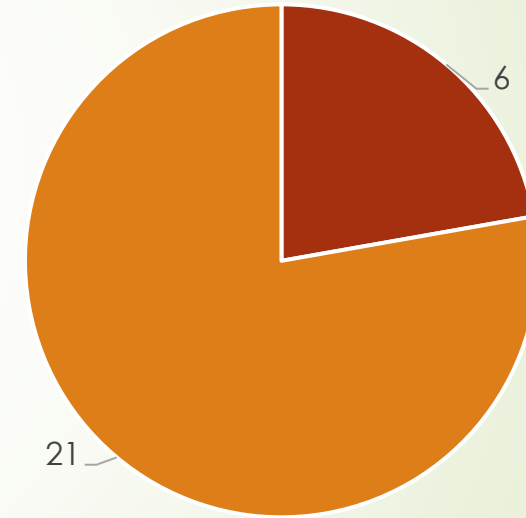
導入前アンケートより

腰痛



■ まったく痛まない ■ 工作中や就寝時間に腰が重い、腰が疲れやすい

業務において入居者の身体を持ち上げたりひきずったりする介助はありますか



■ ほとんどがそう ■ 一部あり

取り組み計画の策定

【様式6】

ノーリフティング実施計画書【

令和5年 10月 1日作成】

No.

【事業所名 特別養護老人ホーム 法正園】

No.	課題	長期目標	期間	短期目標	期間	具体的内容
1	(腰痛予防) 腰痛を抱えている職員が多い	介護による身体的負担がなくなる。	1年	約半数が腰痛改善できる	6か月	<ul style="list-style-type: none">持ち上げ、抱え上げ、引きずり等のケアを禁止する。ストレッチ、体操の習慣化。スニーカーの推奨。不良姿勢で行われる作業をすべて見直し。
2	(ケアの見直し) 入居者に適切なノーリフティングケアの方法がわからない。	全入居者に対してノーリフティングケアができる。	1年	介護者の身体的負担が大きい入居者に対してノーリフティングケアが行える。	3か月	<ul style="list-style-type: none">推進委員会、ユニット会、カンファレンス等で各入居者に適切な方法を検討し見直しを行う必要な福祉用具を検討して購入する(業者への相談、デモ機を利用する)PDAC サイクルを使用し検討していく。
3	(人材育成) ノーリフティングケアの理解が得られない。	施設が一体となってノーリフティングケアに取り組める。	1年	ノーリフティングケアを理解し効果を知る。	3か月	<ul style="list-style-type: none">ノーリフティングケアに対する効果を知る研修を行う。(入居者に対する拘縮予防、褥瘡予防や介護者の身体的負担軽減などを知る研修を行う)モデル事業の取り組み状況を報告、また施設見学を行いノーリフティングケアについての理解をしていく。
4	(組織改革) ノーリフティングケアが取り組める組織ができてない。	継続的な取り組みを行える。	1年	推進委員会を立ち上げ、勤務に取り入れる。	1か月	<ul style="list-style-type: none">ノーリフティングケア推進委員会の設置。各ユニットで責任者を選出する。ケアプランにポジショニングや移乗方法を記載する。適宜、研修会を実施する。
5	(福祉用具) 福祉用具を使用しない移乗方法を行っている	全入居者に対してケアプランに記載し、職員は取り入れた福祉用具を使える。	1年	職員は福祉用具を使用した技術を身に着ける。	3か月	<ul style="list-style-type: none">推進委員会、ユニット会で必要な福祉用具を選定する。研修会や実行委員会などで技術を習得する。ケアプランに使用する福祉用具を記載する。

福祉用具の導入



福祉用具	数
フレックスボード	3
移座えもんシート L	2
移座えもんシート ML	2
ハーティグローブ 50枚入り	3箱
イージーグライド M	4
ロンボ ポジショニングピロー RF-5	2
ロンボ ポジショニングピロー RF-1	2
ロンボ ポジショニングピロー RM-1	2

個別研修

個別研修を指導員、協力施設の
指導のもと実施

「介護者の安心・安全」

介護者の姿勢・身体の使い方

「利用者の安心・安全」

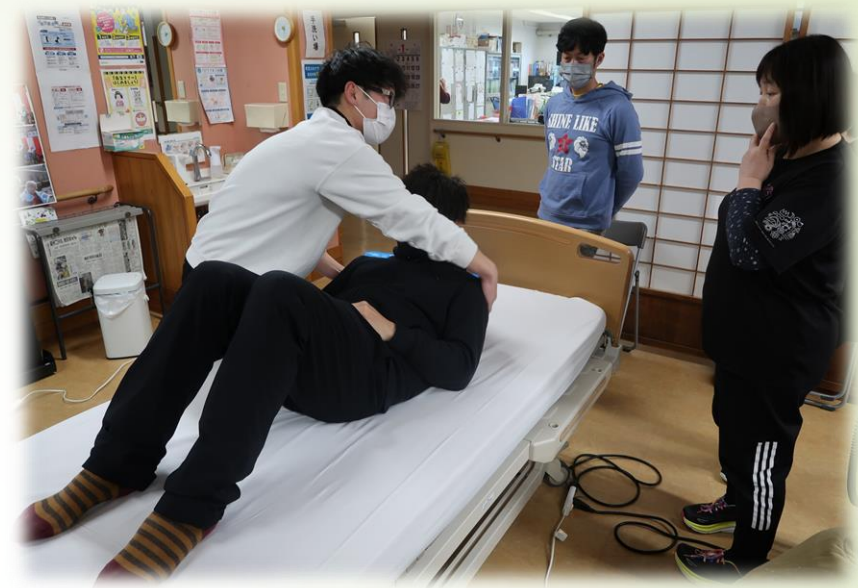
姿勢の見方

「利用者の安心・安全」

姿勢の整え方



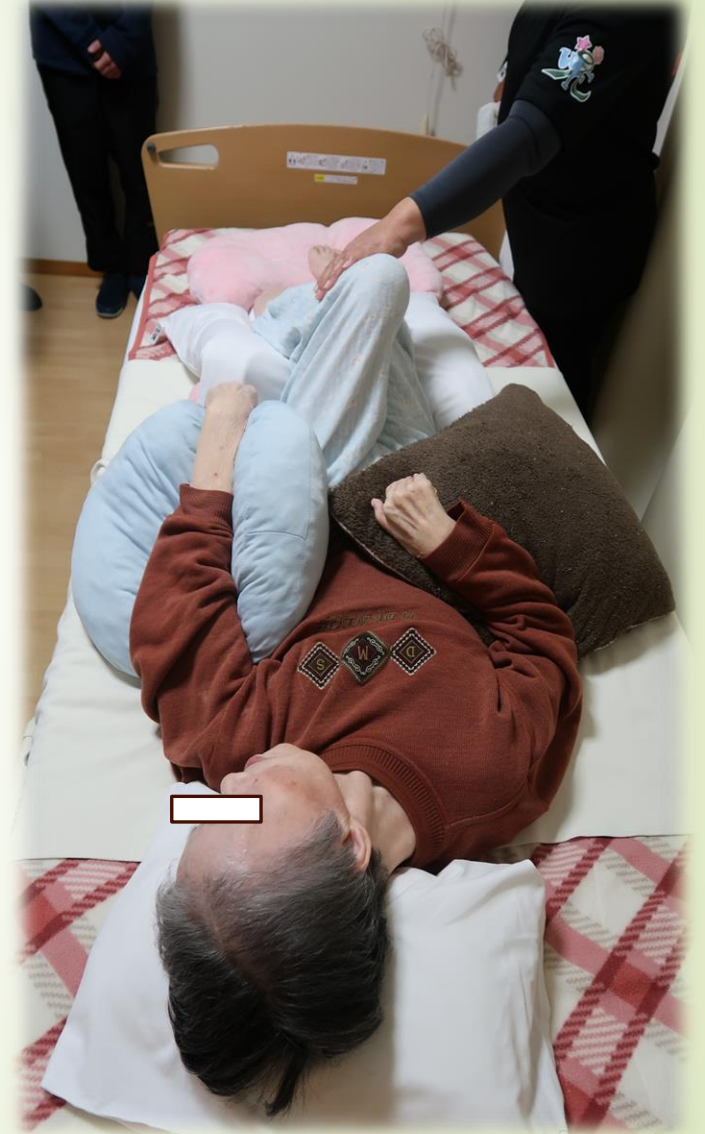
取り組み紹介：施設内研修



個別研修後、施設内研修を実施して参加できなかった職員に対して伝達を実施しました。
手段として

- ・毎月、施設内研修日を設けて実施。
- ・動画の視聴。
- ・福祉用具を使用。

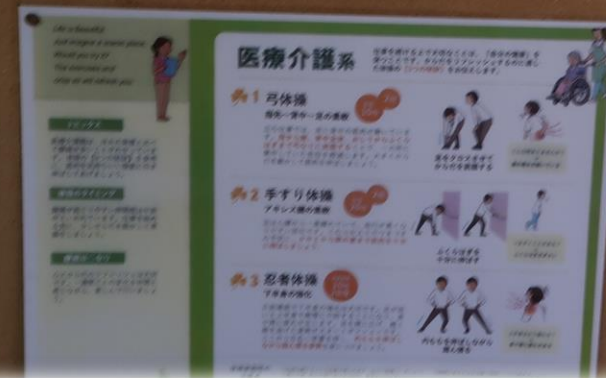
取り組み紹介（ポジショニング）



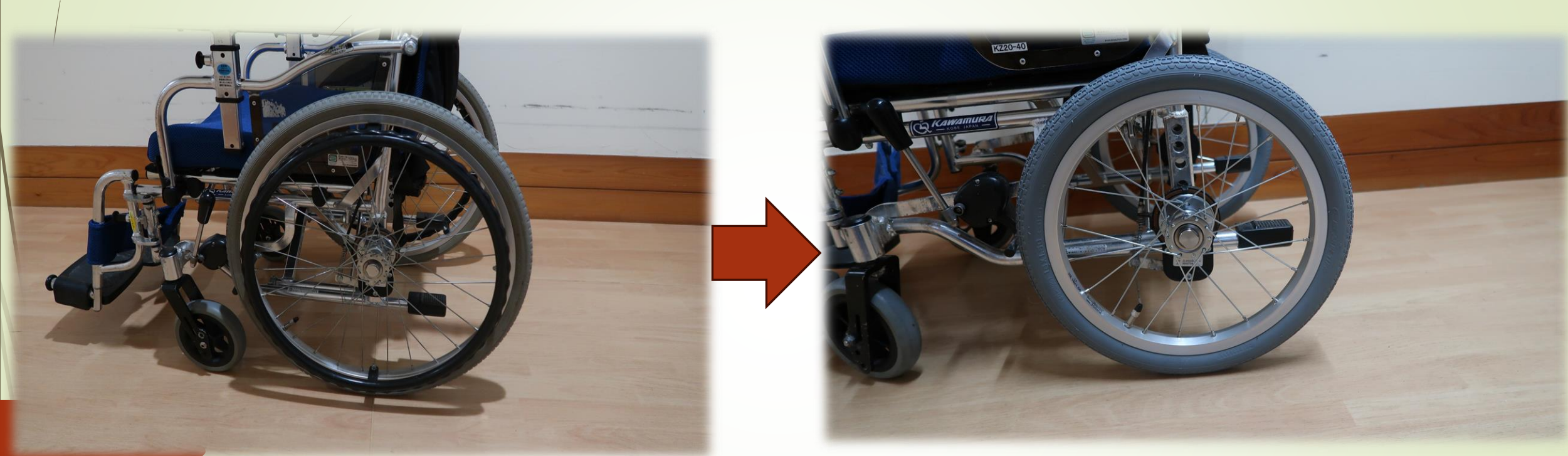
5名の入居者様のポジショニングを教
わりました。
職員が周知できるようにクッション
に位置が分かる写真を居室に掲示し
ました。

取り組み紹介（腰痛体操）

各ユニットに掲示して腰痛体操、ストレッチの習慣化を目指している。始業前や各自が体操の時間を確保して腰痛体操を行っています。



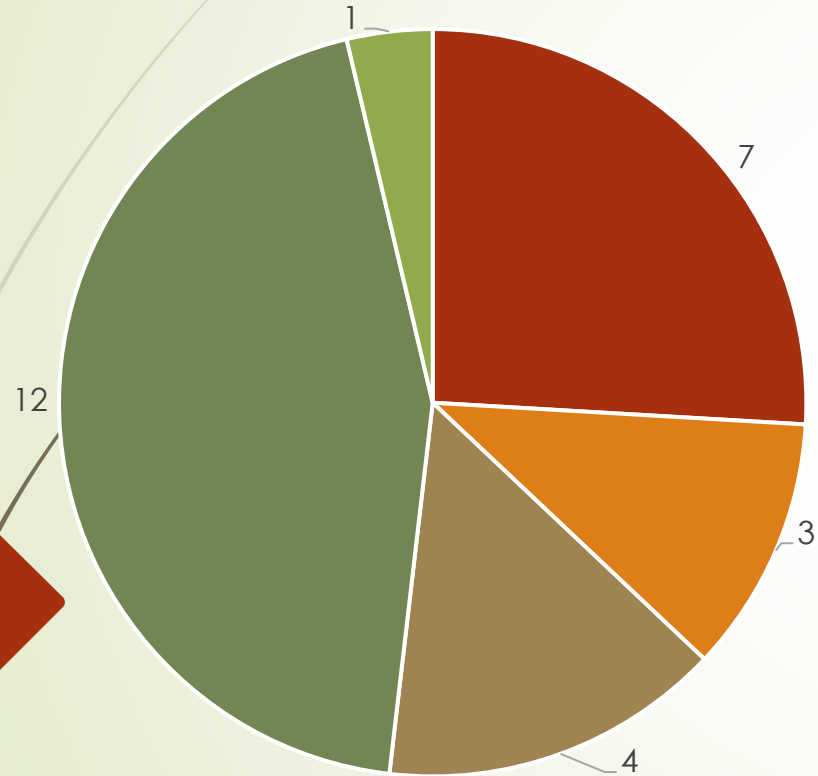
取り組み紹介（車椅子変更）



ほとんどがモジュール型車椅子でした。
ボード移乗しやすいように車輪を介助用車椅子用に変更しました。

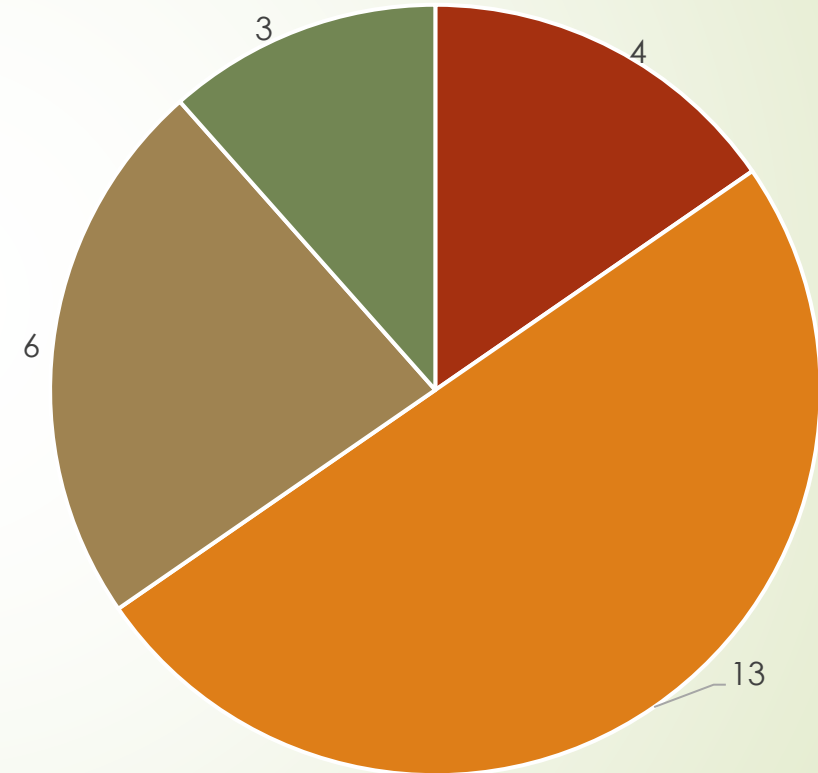
導入後アンケート結果 1

導入後の腰痛状況について



- まったく痛まない
- 腰が重い、疲れやすい
- 以前、腰痛あり再発なし
- 時々痛くなる
- 現在腰痛あり、常に痛い

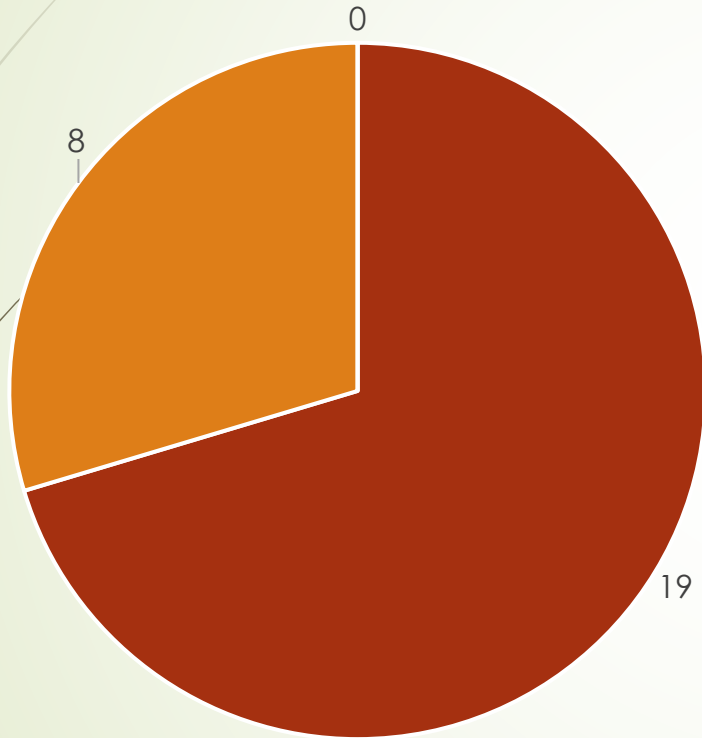
ノーリフティングケア導入したことによって、身体的負担は軽減したと思いますか



- 軽減した
- やや軽減した
- ほとんど軽減しなかった
- 全く軽減しなかった

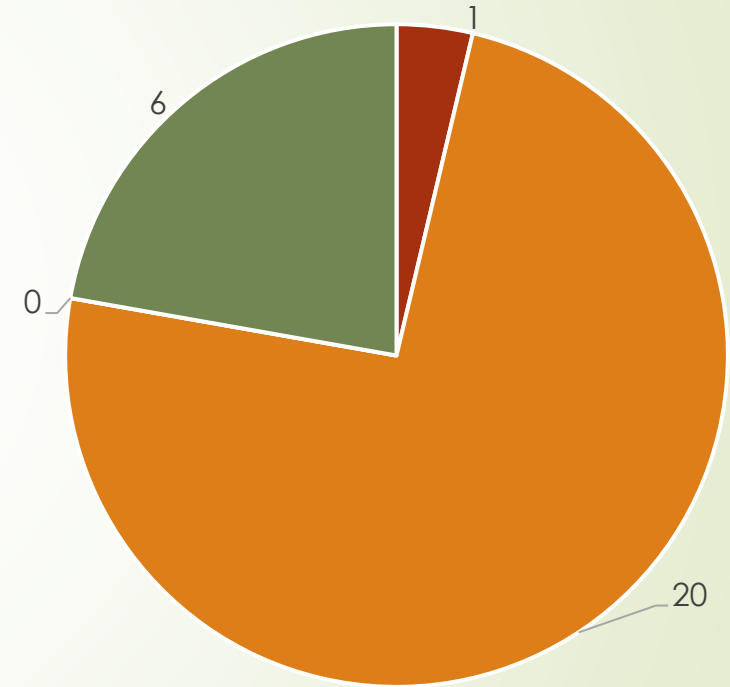
導入後アンケート結果 2

導入した福祉用具・機器の利用状況について



- よく使う
- あまり使わない
- 全く使わない

ノーリフティングケアの研修で学んだことは
日常業務に反映できていますか



- 内容を理解し実践できるようになった
- 内容を理解し少しずつ実践できている
- 内容を理解できておらず実践もできていない
- 内容を理解しできているが、実践には至っていない

職員の声（事後アンケートより）

福祉用具を使用する対象者が一部だから軽減には至っていない。
入居者一人一人にあった福祉用具をユニットで共有できていない。

使用する場面が少ない。

時間がないためノーリフティングケアをあまり使用できていない。

入居者さんに何を使用したらよいのか、完全には理解できていない。

まだ不慣れなため不安がある。

残存機能維持に移乗の前に座位をとってほしいため。

スライディングボードは使用しているが、シートは使用が浸透していない。

見えてきた課題

- ・ノーリフティングケアの技術不足である。
- ・業務に追われ時間がない。
- ・全職員がノーリフティングケアを理解して継続して取り組むことが必要である。

今後について

- ・腰痛アンケートを継続して職員の身体的な負担を把握する。業務についても見直しを行い、取り組める環境を作る。
- ・入居者様のアセスメントを十分に行い適切な介助方法と福祉器具を使用する。
- ・その方にあったケアの方法をPDCAサイクルで検討していく。
- ・入居者の拘縮や姿勢の改善効果があらわれるような安心安全な介護を提供していく。



ご清聴ありがとうございました